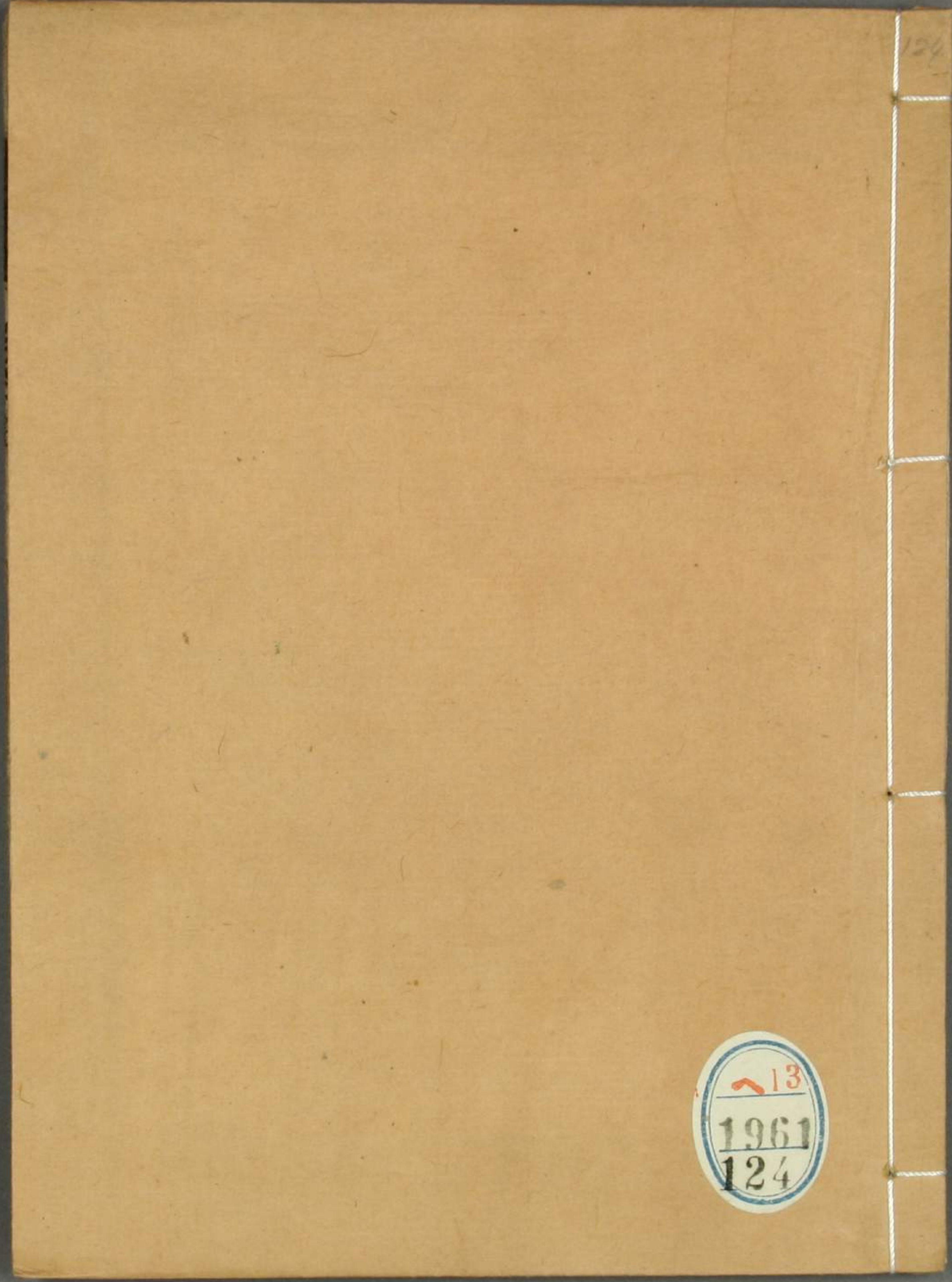


# KODAK Gray Scale



13  
1961  
124

124



引返壁幕明



1961  
124

序

嘗聞荀子性惡孟子性善確言也放屁書生の  
腰乃底紙に於ける處の穴柄色の表紙ふかしく  
陳奮漢文屁の如く新唐古唐唐本に吟詠  
等しく刻ゆると是聖賢の真状を善く  
裏表余此後不圖原く忽然一固乃旨趣と  
案し悪く以て人の心と即善く引返喻の幕明  
と顯して心學者流の茶碗の端と擲く交爾

于皆寛政己未春

於囉囉樓

式亭三馬題





欲  
 金  
 徳  
 二奉捧  
 明徳の  
 徳  
 徳



不量軒  
 柔和里先生講  
 本心不心學子請人呈賞  
 道理先生  
 心學  
 本心  
 不心  
 學子  
 請人  
 呈賞



夫如尻而不敬 以毒若屎而益不憐  
 此言其不敬也 夫如尻而不敬 以毒若屎而益不憐  
 此言其不敬也 夫如尻而不敬 以毒若屎而益不憐  
 此言其不敬也 夫如尻而不敬 以毒若屎而益不憐  
 此言其不敬也 夫如尻而不敬 以毒若屎而益不憐



此言其不敬也 夫如尻而不敬 以毒若屎而益不憐  
 此言其不敬也 夫如尻而不敬 以毒若屎而益不憐  
 此言其不敬也 夫如尻而不敬 以毒若屎而益不憐  
 此言其不敬也 夫如尻而不敬 以毒若屎而益不憐  
 此言其不敬也 夫如尻而不敬 以毒若屎而益不憐

不孝

異説云曰孝の初めは身と賣るる能く見せしめ放蕩家と云ふこと世の不孝の人なり  
 唐人の孫とて、書を以てんべし  
 己指ハやあつ  
 けりしと  
 志すれぬふふふ  
 うりける人か  
 ありとの肉  
 けりしと  
 けりしと  
 けりしと  
 けりしと  
 けりしと

母  
 又とてと世の  
 ねをき  
 おと行通虎ふり  
 面を編とねの  
 あのれらハニかんの  
 けりしと  
 けりしと  
 けりしと  
 けりしと  
 けりしと



己指ハやあつ  
 けりしと  
 志すれぬふふふ  
 うりける人か  
 ありとの肉  
 けりしと  
 けりしと  
 けりしと  
 けりしと  
 けりしと

二月

2

不潔しつゝまを  
 不潔しつゝまを  
 そのおかしき  
 コヤこそまへに  
 おのまへに



**不忠**

不忠  
 何とてまを  
 いふれ  
 ちまきの舟を  
 さいし生  
 さいこれ



不忠  
 不忠  
 不忠  
 不忠  
 不忠  
 不忠



# 不信

「いふは本心かたし  
 友の言づくしを  
 見ればはやくやい  
 ぬをせしむるまじ

朋友の信をばくし  
 まじはれぬを  
 友の言づくしを  
 見ればはやくやい  
 ぬをせしむるまじ  
 友の言づくしを  
 見ればはやくやい  
 ぬをせしむるまじ

是れ  
 はまじ合はぬ志を  
 まさるるとぞは  
 人れは申す



南無散放大庚申像  
 一五の  
 年

「いふは本心かたし  
 友の言づくしを  
 見ればはやくやい  
 ぬをせしむるまじ







# 女房孝行記

宇主自讃哥不白  
我ながら鳴ると鳥も及ぶ  
孝行  
かき

女房といふ物はござのびん  
大台のしほまきと  
女房  
女房のしほまきと女房  
女房のしほまきと女房  
女房のしほまきと女房  
女房のしほまきと女房  
女房のしほまきと女房

女房のしほまきと女房  
女房のしほまきと女房  
女房のしほまきと女房  
女房のしほまきと女房  
女房のしほまきと女房



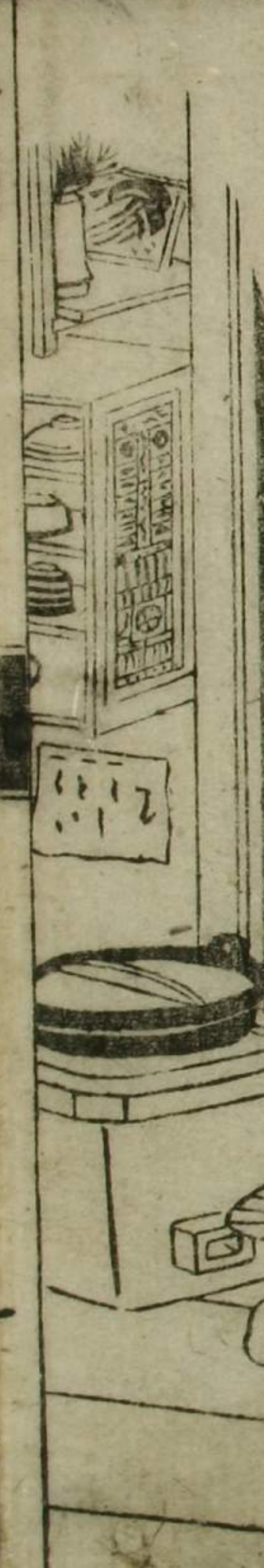
女房のしほまきと女房  
女房のしほまきと女房  
女房のしほまきと女房  
女房のしほまきと女房

女房のしほまきと女房  
女房のしほまきと女房  
女房のしほまきと女房  
女房のしほまきと女房

女房のしほまきと女房  
女房のしほまきと女房  
女房のしほまきと女房  
女房のしほまきと女房  
女房のしほまきと女房



女房のしほまきと女房  
女房のしほまきと女房  
女房のしほまきと女房  
女房のしほまきと女房  
女房のしほまきと女房



女房のしほまきと女房  
女房のしほまきと女房  
女房のしほまきと女房  
女房のしほまきと女房



に歌

黄金の肌けうき  
たのめ<sup>たまめ</sup>  
追色

まゝのめ<sup>ままのめ</sup>  
たのめ<sup>たまめ</sup>

極樂

佛是が

金

敵の  
又福を

世の中

どや

ぐと  
くま  
うき



まぐさのめ<sup>まぐさのめ</sup>  
たのめ<sup>たまめ</sup>  
追色

福のめ<sup>ふくのめ</sup>  
たのめ<sup>たまめ</sup>  
追色

おん金銀  
うき世の中の人ハ  
おん人のどういふ金銀  
をうらぐれりのおん  
こころののたまひ  
おんおん  
かたごんのだらめ  
おん  
ハテワうらめん  
まうらめれうら  
こんいふおん  
うらめれうらめ  
おん  
おん  
おん



よサント  
ガテナ  
ク  
ガテナ



みん<sup>みんな</sup>  
俗用<sup>しやくよう</sup>  
おん  
おん  
おん

おん  
おん  
おん  
おん

人間の業をいふが五十年は方々をまわつて受けたあはれ

叔母くとかねつねと  
その字のつくまはれ  
おとろ人かその身かの  
おとろ人かその身かの  
おとろ人かその身かの  
おとろ人かその身かの  
おとろ人かその身かの  
おとろ人かその身かの  
おとろ人かその身かの  
おとろ人かその身かの



おとろ人かその身かの  
おとろ人かその身かの  
おとろ人かその身かの  
おとろ人かその身かの  
おとろ人かその身かの  
おとろ人かその身かの  
おとろ人かその身かの  
おとろ人かその身かの  
おとろ人かその身かの  
おとろ人かその身かの



李白一斗  
待酒解愁  
おとろ人かその身かの  
おとろ人かその身かの  
おとろ人かその身かの  
おとろ人かその身かの  
おとろ人かその身かの  
おとろ人かその身かの  
おとろ人かその身かの  
おとろ人かその身かの  
おとろ人かその身かの



鈍負鈍負鈍負鈍負  
鈍負鈍負鈍負鈍負  
鈍負鈍負鈍負鈍負  
鈍負鈍負鈍負鈍負  
鈍負鈍負鈍負鈍負  
鈍負鈍負鈍負鈍負  
鈍負鈍負鈍負鈍負  
鈍負鈍負鈍負鈍負  
鈍負鈍負鈍負鈍負  
鈍負鈍負鈍負鈍負

おとろ人かその身かの  
おとろ人かその身かの  
おとろ人かその酒が  
おとろ人かその酒が  
おとろ人かその酒が  
おとろ人かその酒が  
おとろ人かその酒が  
おとろ人かその酒が  
おとろ人かその酒が  
おとろ人かその酒が

おのろ子とたてて... 念ふに佛たがりの神とある

おのろ子とたてて... 念ふに佛たがりの神とある



おのろ子とたてて... 念ふに佛たがりの神とある



おのろ子とたてて... 念ふに佛たがりの神とある

おのろ子とたてて... 念ふに佛たがりの神とある

おのろ子とたてて... 念ふに佛たがりの神とある



おのろ子とたてて... 念ふに佛たがりの神とある

おのろ子とたてて... 念ふに佛たがりの神とある





新作多し、業未だ、と、核あるを、各  
ふり、自ら、追々、し、る、を、中、に、て  
之、笑、の、を、呈、し、即、左、の、通、を

三馬戲作 

夫、南木、使、太平記、向、鉢、卷、三  
是、ハ、噀、氣

芝、全、交、寺、戲、作、開、帳、空、如、來、万、八、縁、起、三

心、教、言、引、返、壁、言、幕、開、三  
悟、段、續

世、話、半、時、代、哉、牙、茶、掛、押、兵、三

略、画、傳、授、燕、學、子、馬、鹿、式、折、本

式、亭、增、補、紅、破、盤、南、京、燒、繼、三

草、壯、子、五、牒、夢、式、真、三、馬、樂、日、記、三

之、知、く、は、見、自、と、り、古、人、サ、全、文、遺、言、イ、く、レ、下、世、三、代、目  
全、文、之、の、相、成、名、を、何、名、存、在、グ、イ、ク、ケ、レ、ル、事、と、未、知、の、水、作、を、中、に、て  
古、人、の、高、名、と、け、が、と、と、思、れ、い、ま、ご、政、名、は、人、傳、イ、全、文、が、傳、と  
し、ま、ら、い、く、事、作、画、一、笑、と、す、意、い、り、進、言、身、亦、は、全、を、好、い、以、上



